

## 学校評価 公表シート 2

### 1 本園の教育目標

建学の精神にのっとり「躰に重点を置き、心身ともに健全で情操豊かな子ども」をめざす。幼児一人ひとりが自信をもって、明るく楽しく落ち着いて生活し、生きる喜びをもてるような教育活動を行っている。

- ① 明るく、楽しく、友だち同士仲良くできるように計画し、指導する。
- ② 幼児の能力や性格などを伸ばすように、教育研究と指導実践の両面を進めていく。
- ③ ふだんから健康衛生に対する関心を高め、実践を通して習慣化していく。
- ④ 集団の中での規律、友愛、礼儀作法が身につくようにする。

### 2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

質の高い教育を提供し、園児たちの健全育成を達成するために、教育内容や活動の見直しを図る。また、今後も持続可能な幼稚園として存続するため、教育・保育の基礎基本に立ち返った実践と教職員が安心安全して働ける職場環境づくりを行う。

### 3 評価項目の達成及び取組内容

評価項目	取組内容
1 「働き方改革」の推進	(1) 勤務時間の見直し、意識改革 ①出勤、退勤時間、朝礼や終礼、職員会や職員研修 ・第4木曜日を午後1時降園に ②他園の情報、ノウハウの導入 ③日常の業務、年間行事、研修時間（終了時刻を決める）の見直し ④1日、1週間、1ヶ月の勤務の見通し (2) 働きがい、やりがいのある働き方（安心安全に働ける職場） ①行事や各活動の意義      ②同僚性、チーム意識、責任感 ③メンタル面のフォロー：ハラスメント対策など
2 求人と採用	(1) 養成校との関係づくり      (2) 実習生へのアプローチ (3) SNSの活用（園の情報発信）
3 保育の基礎基本への立ち返り	(1) カリキュラムマネジメント（カリマネ）の導入 ・自由遊びにおける子どもの姿の見取り（自由活動記録） (2) 主体的・対話的で深い学びのある教育・保育の創造 ・子どもの目線に立ち、心に寄り添った指導 (3) 保育者自身の主体性、他の教職員との対話を通じた取り組み

### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

#### 1 「働き方改革」の推進

昨年度の反省を踏まえて本年度は「働き方」を最重要事項として掲げ取り組んだ。ただし「保育の質」を担保するため、原則保護者へのサービスの業務を削減および廃止する方向で行った。「教職員が早く帰るために」業務の精選と同時に、帰りの園バス添乗を教職員以外の方に依頼したり、第4木曜日を午後1時降園にしたりして教職員の勤務時間や研修時間を確保した。その他、子どもの教育・保育の質低下に繋がらない業務については、大胆に削減するなどして効率化を図り、少しでも子どもと向き合う時間を確保した。

さらに、働きがいややりがいのある働き方を目指すために、目的意識や各行事・活動の意義を考え

ながら取り組んだり、「同僚性」の研修を実施したりして、教職員の関係性が向上するよう努めた。

こうした取り組みの結果、常時5時の退勤は難しかったものの、教職員は早く帰ろうという意識が高まり、同時に限られた勤務時間の中で密度の濃い働き方になっていった。

## 2 求人と採用

求人や採用について、養成校就職担当者への挨拶と園行事アルバイトのポスター掲示を依頼した。また、教育実習が就職志望の動機に繋がるため、本年度はとりわけ教育実習生への働きかけに注力した。本年度、養成校12校、25名の学生が教育実習に参加したが、実習最終日に園長と副園長による面談を実施し、実習の感想を聞く機会や学生の就職に対する意向を捉える機会とした。

また、実習終了後は定期的にLINEで園の情報を伝えたり、行事の様子などを動画や画像でお知らせしたりして実習生との関わりを持ち続けた。その結果、3名の実習生が園の就職説明会の参加に結びついた。さらには、いくつかの養成校が開催する「教育実習懇談会・反省会」にも積極的に参加して養成校との関係づくりに努めた。

## 3 保育の基礎基本への立ち返り

本年度から岡山大学の横松友義先生による「カリキュラムマネジメント（カリマネ）」を取り入れて保育の基礎基本の見直しを図った。設定保育の私立幼稚園は、「カリキュラムありき」の保育が中心で、カリキュラムに子どもを合わせる傾向が強いと横松先生は指摘しており、これからの時代に求められている教育・保育は「主体的・対話的で深い学び」であり、子ども主体の保育の重要性を横松先生は説いている。そのため、子どもの自由な活動の時間を確保し、その中で子どもたちの遊びを見取り、保育に発展させていく取り組みを力説している。具体的には、「自由活動記録」の作成とそれらを基にした「カンファレンスシート（カンファレンスシートとは、自由活動記録を多くの保育者の視点で捉える活動）」の作成、そしてそれに基づく週案の作成である。こうした活動を通して子どもの発達に沿ったカリキュラムの編成・再構築をするのがカリマネ目指すところである。

カリマネ導入1年目ということで、カリキュラムの再構築までには現在至っていないが、保育者の子ども（遊び）を観察する意識と態度は育っていると感じる。子どもの成長や実態を見据えた上で、次年度のカリキュラムを編成していきたい。

## 5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1-①保育の基礎基本への立ち返り	カリキュラムマネジメントの深化
1-②求人と採用	養成校との関係づくりと教育実習生へのかかわり
1-③安心・安全な園づくり	子どもや保護者、働く教職員にとって安心・安全な園づくり

## 6 学校関係者の評価（保育参観に参加して）

- 心身統一の際、バランス3種目を園児本人に決めさせていたことが良いと思った。
- 自信を持って活動に取り組んでいる様子が良かった。先生の「うれしいね！」の言葉にみんな笑顔。「緊張するね」等の言葉にも表情豊か。「優しい声」等、先生の言葉をよく理解している。
- リレーを参観し、目標に向かって勝ち負けの嬉しさや悔しさを経験できて良かったです。笑顔も涙も良い思い出です。
- 子どもも先生も表情豊かでいいなと思った。年少さんに難しいことだけれど、まったくできない子がいないのがすごいと思った。自分で自分を褒める時間があり、とても大切だと思った。

## 7 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。